

投稿規定（平成五年六月一日改訂）

一 本誌に掲載する論文は医史学研究に貢献しうるもので他誌に未発表のものとする。

二 投稿者の資格は共著者も含めて本学会会員とする。ただし編集委員会が特に認めたものはこの限りでない。

二 原稿の区分は、原著・総説・研究ノート・広場・資料・紹介・消息等とし、その採否は編集委員会が決定する。原著・研究ノートは編集委員会の委嘱する審査委員が査読し、それにもとづいて採否および区分を編集委員会が決定する。

四 執筆要項

a 原稿は二〇〇字または四〇〇字詰め縦書き原稿用紙を使用のこと。ワープロ（縦書）の使用も可。一行は二〇字または四〇字とし行数を原稿に記すこと。

b 原著・総説・研究ノート・広場・資料の場合は、欧文表題・ローマ字著者名を原稿の末尾に記し、原著および研究ノートにおいては欧文抄録（二五〇語以内）とその対訳和文を添えること。

c 欧文題名・欧文抄録での日本人名の表記については、五 外国語原稿の e 項に準ずるものとする。

d 原稿の末尾に著者の所属および連絡先を記載すること。

e 表記は原則として常用漢字・人名用漢字以内で、新か

なづかいを使用する。難字は欄外にも楷書で別記する。

f 外国人の人名・地名は、よく知られたもののほかは初出の箇所に原綴またはローマ字を添えることが望ましい。

g 図・表は明瞭に書き、写真は原則として白黒の紙焼きとする。裏には著者名・番号・天地を明記し、挿入位置を原稿中に明示すること。

h 注・参考文献は末尾にまとめ、本文初出順に算用数字の通し番号（1）、（2）…をつけて、照合の便宜をはかること。

i 参考文献の引用の仕方は①雑誌の場合は、著者名・論文題目・雑誌名・巻・号・頁・年次（西暦・和暦いずれも可）の順に書く。②単行本の場合は、著者名・書名・該当頁・発行所名・発行地・年次を記載する。③編著書の場合は、著者名・論文題目・著者名（編者名）・該当頁・発行所名・発行地・年次とする。④古文獻の場合、江戸時代以前の国書については、原則として、編著者名・書名・成立年・刊行年（もしくは抄写年）・発行者名・発行地など、必要ならば該当丁（葉）あるいは頁数もしくは項目名を記し、稀覯本については所蔵者名も明記すること。清代以前の漢籍（和刻本・日本写本も含む）についても、前記に準ずる。

(例)

【雑誌】宗田 一「司馬江漢の西遊をめぐって」『日本医史

学雑誌』三〇巻四号、四二五～四三二頁、一九八四（昭和五十九年）

【単行本】富士川游『日本医学史』五四頁、形成社、東京、一九七二（昭和四十七年）

【編著書】大塚恭男「中国医学の伝統」村上陽一郎編『医学思想と人間』（知の革命史6）六三～九四頁、朝倉書店、東京、一九七九（昭和五十四年）

五 外国語原稿

a 外国語原稿は、原則として英語・独語・仏語いずれかとする。

b 外国語の原稿は原則として、一行約六五字、一頁に二五行、ダブルスペース（二行おき）で印字する。

c イタリアック・ゴシック・ギリシャ文字等はかならず朱筆で指定する。

d 日本語・中国語を欧文表記する時は、初出の箇所に漢字を付記する。

e 日本人名を欧文表記する際には原則として名を先に、姓を後とする。ただしそれが不自然な場合はケース・バイ・ケースで扱って差し支えない。

f 中国語の欧文表記は、現代中国語音のローマ字綴り（ピンイン式）とする。引用文献がウェード式の場合は、この限りでない。

g 注・文献・図表については、和文原稿の規定に準ずる。題名中に書名が出現する場合は引用符「」で囲み、イ

タリック体を使用しない。

(例)

【雑誌】Nutton, V.: Galen in the Eyes of His Contemporaries. Bulletin of the History of Medicine. 58: 315-324, 1984.

【単行本】Temkin, O.: The Falling Sickness; a History of Epilepsy from the Greeks to the Beginnings of Modern Neurology. 2nd ed. 25-40, Johns Hopkins University Press, Baltimore, 1971.

【編著書】McC. Brooks, Ch. and Levey, H. A.: Humorally -Transported Integrators of Body Function and the Development of Endocrinology. 183-238 in McC. Brooks, Ch. and Cranefield, P. F. (eds.): The Historical Development of Physiological Thought. Hafner, New York, 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責とみなす。

八 刷り上がり一〇印刷ページ（四〇〇字詰原稿用紙で二四

枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし、実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

千一一三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

梅の開花便りの聞かれるころとなつて、四四巻一号の編集作業がようやく終りに近づいた。あともう一度裏表紙の欧文目次の校正刷りを見せてもらえば、印刷に取りかかれよう。何よりも内容的に見て、本巻が堅実な良いスタートが切れることを喜びたいと思う。

これを追いかけて年初に始まった二号(抄録号)の編集もすでに平行して本格化しているが、こちらは作業量が多いので、まだこれからもいくつもの山を越えねばならない。しかし、大会の期日から逆算して、遅くも四月中旬までには一同力を合わせて、校了に漕ぎつけたいものと思つている。

作業に追われているときに、ときどき脳裏に蘇つて来る風景がある。もう二十年も前のこと、初めて末席に連なつた編集委員会に故小川鼎三、大島蘭三郎の両先生が欠かさず現れて、われわれ平の委員と同じように校正にいそしんでおられた場面である。爾来不敏にして今日まで叶わなかつたことも多いが、筆者をしぼしぼ初心に引き戻してくれたのは、この原風景だつた。

もう一つ。先ごろ時ならず他界された故宗田一先生は、守備範囲が広く仕事の処理も抜群に速い方だつたが、多年に亘つて論文の審査を率先して快く引き受けて下さつた。本来、審査担当者の氏名は明かさないうことになっているが、残念ながら過去形にせざるを得なくなつた今日、これを片隅にせよ書き留めておくのは、編集に携わる者の義務でもあらうと思ふのである。

(三輪卓爾)